

特集：ブラジル

ブラジル文化の重層性とその魅力についての四つのメモ

岸和田 仁

ウイルソン・マルティンスと 1970 年代

「パラナとは何か。社会学的な視点からいえば、他のすべての諸文明の破片群を合わせて築き上げたオリジナル文明という新次元を、ブラジルに付与した地域である。奴隷制なし、黒人なし、ポルトガル人なし、インディオなし、であったから、人的規定からすればブラジルのではないともいえるだろう。大仰な身振りや感情の爆発に敵対しつつ、その歴史は、謙虚かつ堅固に、その奥深いところでは全くブラジルの歴史を築き上げた。それは、多くの対立文化に対抗しつつもナショナルな思念を植えつけることが出来た、という意味でのブラジルの歴史だ。州民文化のルーツであるヨーロッパ本体でも出来なかった人間同士の友愛という模範を示し、それぞれ違った諸文化を調和的にまとめるという素晴らしい経験を具現化できたのであった。これが、パラナである。」

これは文芸批評家ウイルソン・マルティンス（1921－2010 年）の『ある異形のブラジル』（初版 1955 年）最終章の結語部分である。自分の出身地パラナを歴史社会学の観点からケーススタディした作品であるが、一旦法曹界に身をおいたものの学者へ転進、フランス文学研究で博士号を取得して文学研究者として活躍していたマルティンス青年にとっては、「南部ブラジル人も含めたブラジル人としてのアイデンティティ宣言」であった。

むろんパラナにもインディオも黒人もポルトガル人もいたわけであるから、「黒人なし、インディオなし、ポルトガル人なし」と言い切っているのは、パラナを強調するための文学的表現と解釈すべきだが、ドイツ、イタリア、ポーランド、ウクライナなどの欧州移民によって形成されたパラナ州に代表されるブラジル南部は「もう一つの異なったブラジル」だ、との主張である。ジルベルト・フレイレが『大邸宅と奴隷小屋』（1933 年）や『熱帯の新世界』（1959 年）で示した、先住インディオ＋ポルトガル＋アフリカという三つの文化の混血・融合がブラジル社会を形成したという”定説”への、南部ブラジル事例を通じた批判であったが、フレイレ説を全面的に否定するアンチテーゼではない。サトウキビ経済に代表される植民地期（16～18 世紀）の”伝統的”ブラジルを基底として、19 世紀後半以降移民によって新しく形成されていく南部ブラジルが加わり、その混淆により近代ブラジルが成立した、という主張である。

だからこそ、ブラジル文化に揺らぎない自信を抱いていたマルティンスが、異国（米国）での長年に亘る大学教員生活のなかで、ベネディクト・アンダーソンのいう「遠隔地ナショナリズム」を自ら深化させ、その知的成果を『ブラジルのインテリジェンスの歴史』（全 7 巻）として発表・刊行することになる。これは 16 世紀から 20 世紀までのブラジル文芸史を通観した作品であるが、その圧倒的な分

厚さと濃密な叙述は類書の追従を許さない。各巻が 600 頁ほどの厚さで、全 7 巻という百科事典的著作だ。文学を主体に、科学、哲学、芸術から社会思想までカバーしており、文字どおり「ブラジルのインテリジェンス」の通史であった。初版が出てから 30 年以上たった今日でも、文学史・思想史研究に金字塔を打ちたてた名著であり続けているが、全巻が出版された年が 1979 年であったことに改めて注目したい（全巻再版は 2011 年）。

軍政が進めた経済成長政策が「ブラジルの奇跡」を演出した 1970 年代は、言論が弾圧され、多くのアーティスト・文化人が海外亡命を余儀なくされた時代でもあった。その 70 年代最後の 1979 年という年は政治恩赦が確立したことで、亡命者たちも次々と帰国し、政治活動も言論の自由も回復していく前段階の年であった。そんな時代背景のなかで出版された『ブラジルの知性の歴史』が、ブラジル人としての自信を喪失気味であった教養中産層に広く受け入れられたのは当然であった。この文脈において、マルティンスの文芸通史がもたらした知的インパクトは実に大きく、その後のブラジル文化全般への活性剤の役割を果たしたといえよう。その意味でも、この記念碑的大著が静かに再評価されていることを筆者として喜ぶたい。

エリート文化、大衆文化そして雑種文化

20 世紀前半のブラジルは、識字率が 30～40%程度で、国民の 7 割前後が非識字者であった。大都市に住む一部の知識層が、進んだヨーロッパを仰ぎ見てエリート文化を構成し、人口の大部分を占める農村住民はフォルクローレとほぼ同義である大衆文化を育てていた。この二つの断裂した文化が、1930 年代あたりを起点として、海外のポピュラー文化の要素も取り入れながら混合ないし融合して、新し

いブラジル文化＝クレオール的雑種文化が生まれてくる。といっても、二つの文化が、一挙に一つの融合文化に収斂するという構造には向かわず、いくつかの文化傾向が混在する時代になった、というべきだろう。レアルプラン（1994 年）によるインフレ経済の終息、国内市場拡大による経済成長が、一層の都市化を促進し、その結果、農村文化と都市文化の双方向運動がさらなる相乗効果を創出している。

音楽の例でいくと、サンバ。奴隷解放（1888 年）でバイーアからリオデジャネイロへ移住した元黒人奴隷たちがアフリカ起源のルンドゥーをベースとして生み出した音楽が、サンバの原型であるが、1930 年代に“正統な”国民音楽に昇格していくにあたって、ジルベルト・フレイレという仲介者が果たした役割は大きい、とエルmano・ヴィアナの快著『ミステリー・オブ・サンバ』（武者小路実昭訳、ブルース・インターアクションズ、2000 年）は教えてくれる。1958 年に生まれたボサノヴァは、ジャズなどの米国音楽に影響されたリオの都市中産層の若者によるポップ文化であるが、ベースにサンバがあることは明白だ。

1990 年代にシコ・サイエンスがレシーフェで始めたマンゲ・ビートは、ノルデスチの大衆伝統文化バイアウン、エンボラダ、シランダ、マラカトゥとサンバをベースに、米国産ジャズ、ソウル、ロック、ラップが混合した新音楽潮流であるが、「ポストモダン性を備えたハイブリッド文化」ということが出来る。

ブラジル音楽は、ヨーロッパ起源の様式やメロディーにアフリカ由来のリズムが加わり、さらに地域の伝統スタイルも混合して出来上がった多様なカクテルであり、天才的タンゴ奏者アストル・ピアソラがかつて語ったように「世界で一番豊かなポピュラー音楽」である。

ブラジル映画の魅力

リオデジャネイロのファヴェーラに住む少年たちの日常を映像化した『リオ 40 度』（1955 年）を引っさげて映画界に登場したネルソン・ペレイラ・ドス・サントスは、ノルデスチ文学の古典的作品を映画化した『乾いた生活』（1963 年）で旱魃難民という社会問題を世界に示した。また、ノルデスチにおける義賊的匪賊や千年王国運動をサンバ調で映像化した『黒い神と白い悪魔』（1963 年）で欧州映画界を震撼させたグラウベル・ローシヤは、その後『狂乱の大地』（1967 年）、『アントニオ・ダス・モルテス』（1968 年）などの問題作を次々と発表し、「シネマ・ノーヴォ」とよばれる映画潮流を引導していく。いわばブラジル版ヌーベル・ヴァーグであるが、今一度この再評価がなさるべきと筆者は考えている。

その後、70 年代はネルソン・ペレイラの『奇蹟の家』（1977 年）、カルロス・ディエグスの『バイバイ・ブラジル』（1979 年）といった話題作が続く。80 年代から 90 年代前半は政府の文化軽視政策もあって映画界は低迷するが、1995 年以降は「ブラジル映画ルネサンス」

といわれるほどの躍動期となる。映画のタイトルを列記すれば、ファビオ・バレット『愛の四重奏』（1996 年）、ブルーノ・バレット『クアトロ・ディアス』（1997 年）、セルジオ・レゼンデ『カヌードス戦争』（1997 年）、ヴァルテル・サーレス『セントラル・ステーション』（1998 年）、フェルナンド・メイレス『シティー・オブ・ゴッド』（2002 年）、カルロス・ディエグス『ゴッド・イズ・ブラジリアン』（2003 年）など。社会派映画も娯楽映画も、ブラジル映画の裾野は広がっており、その魅力もまた広がっている。

ブラジル文化の仮説的定義

「ブラジル文化とは、イベリア・先住インディオ・アフリカの三位一体をベースとする基層文化に多様な移民文化が付加・混淆されたハイブリッド（一代雑種）文化だが、一代で終わらず再生・発展著しく、その表現者も受容者も全世代に開かれた、豊穡にして重層的な文化体系である。」

（きしわだ ひとし

（社）日本ブラジル中央協会理事）

~~~~~ [ラテンアメリカ参考図書案内] ~~~~~

## 『バイオエネルギー大国ブラジルの挑戦』

小泉 達治 日本経済新聞出版社 2012 年 1 月 253 頁 1,800 円＋税

著者は、農水省農林水産政策研究所で早くからブラジルのバイオマスエネルギー源と食料生産に着目してきた研究官。ブラジルは、1970 年代から自動車燃料としてアルコール（エタノール）の大規模生産と使用に邁進してきた実績があり、現在国家戦略としてバイオエタノール、バイオディーゼル、バイオ電力を 3 本柱とし、再生可能燃料で世界をリードしている。

これまでブラジルといえばとかくバイオエタノールが注目されてきたが、本書はバイオ電力産業の育成、バイオ燃料の普及、ならびにバイオエネルギーの将来と食料需給に与える影響に至るまでを解説し、電力供給に不安を抱える日本が学ぶべき政策を示唆している。

~~~~~ [桜井 敏浩] ~~~~~